



R3. 3. 22

今月のキーワード

パフォーマンステストの実施

中学校教科書入門期の活用

先月号に引き続き、パフォーマンステストの実践例を紹介いたします。実際の取組や事後指導等について参考にさせていただき、子どもの実態に応じた実践を重ねていってほしいと思います。

パフォーマンステストの実施 (2)

パフォーマンステストを実際に行うと、予想しなかった子どもの反応に、どのように評価すればよいのか迷ったり、改めて課題が明確になったりしてくるものです。「教えたのに、どうして・・・が言えないのだろう」という気持ちになりがちですが、「ここまで出来るようになった」という意識を持つことを心掛け、「～できるようにするためには、どんな活動を取り入れていけばよいだろう」と評価を指導に生かしましょう。以下、実施に当たっての留意点や、事後指導について掲載しました。

南河内中学校区（教師用手持ち資料）より抜粋

◆実施に当たって

- ・実施時間は一人1分程度とする。 ・挨拶や会話は、児童から ALT に話かけることを確認してから始める。
 - ・児童が質問の意味を理解していない場合には、10秒程度待った後、ヒントを与える。(すぐにはヒントを与えない。)
- 例) T: What subjects do you like? S: ... (約10秒) T: Japanese? P.E? Music?
- ・ALT が質問し、児童が答えられない(無言)状態が10秒程度続いた場合は、次の質問に進む。
 - ・児童から質問する機会(間)を与えるなど、目的を達成するために工夫する場面を確保する。



【課題として挙げられたこと】

- ・ALT から話しかける機会が多くなり、子どもが思考する(工夫して伝える)時間を十分確保できなかった。
 - ・評価の基準について、事前に ALT と共通理解を図ることが難しかった。
- パフォーマンス評価の在り方については、市教委としても来年度 ALT 対象の研修を取り入れていく予定です。各校でも教師間で評価方法を共有したり、子どもと到達目標を確認したりしながら進めていってください。



◆事後指導

- ・児童自身が会話を振り返り、「英語で」「工夫して」の観点から、自己評価を行う。
- ・自分の会話を振り返り、できるようになったこと(話す・聞く)や工夫したことを記述させ、**学びの手応えを感じられるようにする。**
- ・言いたくても英語で言えなかった表現や工夫した表現を確認し、全体で共有する。
- ・A 評価の児童の様子を学級全体で共有する。



「なるほど、そう言えるとよかったのか」「そういう方法もあるのか」「自分もやってみよう」と思えることが、学びの共有につながります。





○小中の接続期を充実させましょう

小学校では「聞く」「話す」を中心に学習してきました。そのため、中学校1年生の4～5月は、聞いたり話したりする「音」の活動から入り、「英語の時間が楽しい」「英語をもっと話したい」「もっと知りたい」という好奇心を特に高めていってほしいと思います

教科書の各 Unit (単元) 冒頭の扉ページでは「聞く」活動が設定されています。また小学校で学んだ表現を使って「話す」活動を行い (下記資料)、本文を音で聞いてから「読み」に入る構成となっています。聞いたり話したりする音声の指導が重視されていることが分かります。

資料

Enjoy Communication

第1学年教科書 Unit2 (P20) より抜粋

入学後から今までにクラスメートについてどんなことを知りましたか。まずペアを作り、次に別のペアとグループを作りましょう。そして自分のペア (最初に話をした人) について「こちらは・・・です。彼/彼女は私のクラスメートです。」と言い、さらに知っていることを1つ加えましょう。

例 This is Shota. He's my classmate.

He can run fast. (He's a guitar player. He's a soccer fan. など)



上記のような活動では、例文やパターンに縛られることなく、自由に発話させることを重視し、子どもが「できる、話せる」といった自信を持てるようにしましょう。



○目的・場面・状況に応じて使える英語力を育てましょう

新学習指導要領では、指導に当たってコミュニケーションを行う目的・場面・状況を設定することが求められています。文法の必要性や有用性を実感させたいうえで、規則性や文構造への気付きを促すことが大切です。また、文法の用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮してください。

Unit 本文の前には Preview が設けられています。文法を使う「目的・場面・状況」を表す音と映像を視聴することで気付きを促し、文法とコミュニケーションを関連付けて学習できる構成となっています。



Preview

例：～と・・・は何について話をしていますか。

(二次元コードから動画を見ることもできます。)



小学校では、文法の学習は行っていません。小学校で表現として音声で慣れ親しんだものを、中学校1年生の早い時期に文法として整理しておくことも効果的です。

